



千葉銀行Webサイト
〔IRライブラリ〕



2025年3月期 第1四半期 決算の概要



2024年8月2日

淡路でございます。日頃より千葉銀行をカバーしていただきまして、誠にありがとうございます。
それでは、資料に基づいて説明いたします。

2025年3月期 第1四半期 決算

業績概要	3
業績概要（連結）	4
資金利益	5
貸出金平残・利回り	6
貸出金未残・預金未残	7
有価証券①②	8-9
役務取引①②③	10-12
与信関係費用・金融再生法開示債権	13
経費	14
自己資本比率・ROE・株主還元	15
DX	16

補足資料

金利上昇シミュレーション	18
足許の貸出金利息について～事業性貸出～	19
足許の貸出金利息について～ローン～	20

パーパス
一人ひとりの思いを、
もっと実現できる
地域社会にする

ビジョン
地域に寄り添う
エンゲージメント
バンクグループ

第15次
中期経営計画

エンゲージメント
バンクグループ
～フェーズ1～

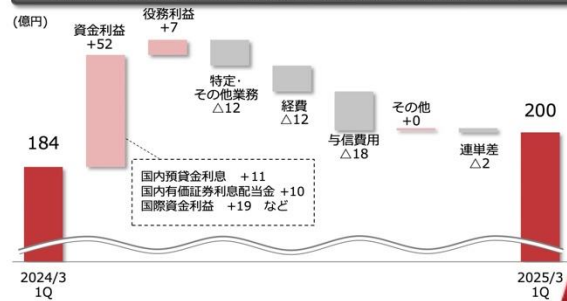
計画期間
2023年4月～2026年3月



単体	2024/3 1Q	2025/3 1Q	前年同期比	2025/3 計画	進捗率
業務粗利益	462	510	48	1,830	27.9%
資金利益	382	435	52	1,460	
役務取引等利益	64	72	7	317	
特定取引利益	3	4	0	22	
その他業務利益	11	△ 0	△ 12	30	
うち債券関係損益	△ 2	△ 9	△ 6	13	
経費 (△)	211	223	12	885	25.2%
業務純益 (一般貸引繰入前)	250	287	36	944	30.3%
コア業務純益	253	296	42	931	31.8%
除く投資信託解約損益	244	285	41	904	31.5%
一般貸倒引当金繰入額 (△)	-	△ 1	△ 1	9	
業務純益	250	288	37	935	30.8%
臨時損益	34	27	△ 7	7	
うち不良債権処理額 (△)	1	22	20	66	
うち貸倒引当金戻入益	0	-	△ 0	-	
うち株式等関係損益	36	51	14	70	
経常利益	285	315	30	943	33.5%
特別損益	△ 0	△ 1	△ 0	△ 2	
四半期純利益	216	235	18	669	35.1%
与信関係費用 (△)	1	20	18	75	27.4%
連結					
連結経常利益	259	287	27	979	29.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益	184	200	16	680	29.4%
(参考)					
連結業務純益 (一般貸引繰入前)	241	275	33	1,052	26.2%

- ◆ トップラインの業務粗利益は前年同期比+48億円の増収となり、第1四半期として過去最高を更新
 - ・ 資金利益は、国内預貸金利息が同+11億円と好調なことに加え、国際資金利益が同+19億円と堅調に推移したことから、全体では同+52億円の増収
 - ・ 役務取引等利益は、法人ソリューション、キャッシュレスが牽引し、同+7億円の増収
- ◆ 経費は、人的資本投資や戦略的投資の実施により同+12億円増加したものの、連結OHRは45%台と高い効率性を維持
- ◆ 与信関係費用は、同+18億円増加したものの、不良債権比率は同△0.01%低下の0.90%と低位を維持
- ◆ 四半期純利益は、単体が過去最高を更新し通期計画に対する進捗率は35.1%、連結が4期連続増益となり進捗率29.4%と順調に推移

親会社株主に帰属する四半期純利益の増減要因 (単体+連単差)



Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

まず、業績概要です。第1四半期は、資金利益が前年同期に比べて52億円増加し、トップラインの業務粗利益は48億円増加の510億円となり、第1四半期として2年連続で過去最高を更新しました。

経費は12億円増加しましたが、人的資本投資や戦略的投資によるものであり、計画どおりです。

与信関係費用は20億円の計上となりましたが、不良債権比率は0.90%と低水準を維持しております。

これらの結果、四半期純利益は単体が過去最高の235億円となり、通期計画に対する進捗率は35.1%、連結は4期連続増益の200億円となり、進捗率は29.4%と、いずれも順調に推移しています。

連結	(億円)	2024/3 1Q	2025/3 1Q	前年同期比
連結粗利益		451	492	40
資金利益		340	391	51
役員取引等利益		94	96	2
特定取引利益		5	3	△ 1
その他業務利益		11	△ 0	△ 12
営業経費（△）		230	237	7
与信関係費用（△）		5	23	17
一般貸倒引当金繰入額（△）		2	0	△ 1
不良債権処理額（△）		3	23	19
株式等関係損益		36	52	16
持分法投資損益		0	0	△ 0
その他		6	3	△ 3
経常利益		259	287	27
特別損益		△ 0	△ 1	△ 0
税金等調整前四半期純利益		259	286	27
法人税等合計（△）		75	85	10
四半期純利益		184	200	16
非支配株主に帰属する四半期純利益		-	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益		184	200	16
(参考)				
連結業務純益（一般貸引繰入前）		241	275	33

子会社の状況

【連結子会社】

※連結決算用に組替後のPL表示

【連結子会社】			(億円)		
会社名	出資割合 (間接含む)	利益項目 (子会社間配当控除後)	2024/3 1Q	2025/3 1Q	前年同期比
ちばぎん証券	100%	経常利益	△ 0	△ 0	△ 0
		四半期純利益	△ 0	△ 0	△ 0
ちばぎんリース	100%	経常利益	1	2	0
		四半期純利益	1	1	0
ちばぎん保証	100%	経常利益	12	13	1
		四半期純利益	7	8	0
ちばぎんカード [※]	100%	経常利益	3	1	△ 2
		四半期純利益	2	0	△ 1
その他4社 合計	100%	経常利益	1	1	△ 0
		四半期純利益	0	0	△ 0
合計		経常利益	18	17	△ 0
		四半期純利益	11	11	△ 0

※ 2024年4月、ちばぎんジェーシーピーカードとちばぎんカードは吸収合併を実施（ちばぎんカードを吸収合併存続会社とする）

【持分法子会社】

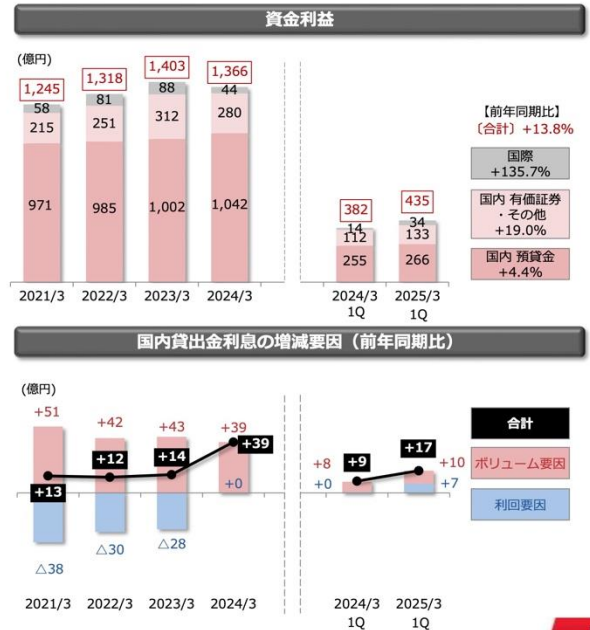
6社 合計	持分法に応じた 四半期純利益	0	0	△ 0
-------	-------------------	---	---	-----

親会社への配当(△)	44	46	1
連単差 ※	△ 32	△ 34	△ 2

※未実現利益等の調整後

(億円)	2024/3 1Q	2025/3 1Q	前年同期比
資金利益	382	435	52
国内資金利益	367	400	32
預貸金利息	255	266	11
貸出金	255	273	17
預金+NCD (△)	0	6	6
有価証券利息配当金	108	119	10
債券	12	15	3
株式配当金	75	81	6
投資事業組合	0	0	0
投信	21	21	0
うち解約益	9	5	△ 3
その他 (市場運用調達等)	3	14	10
国際資金利益	14	34	19
貸出金	58	81	23
外国証券	63	99	35
外国証券	55	80	24
外貨ファンド	6	13	6
投信	0	5	5
うち解約益	-	4	4
その他 (調達、市場運用等)	△ 107	△ 146	△ 39
資金利益 (除く投信解約益)	372	424	51
投信解約益	9	10	1

Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

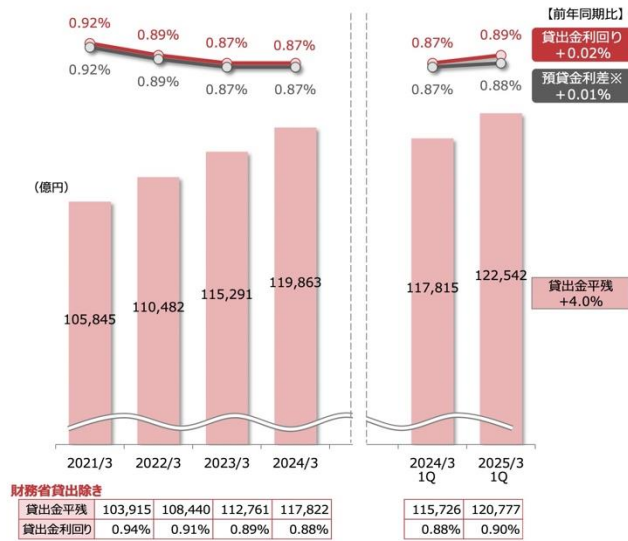


資金利益です。全体で 52 億円増加しました。国内部門は、右下のグラフのとおり、利回り要因がプラスに転じ、貸出金利息が 17 億円の増加となったほか、左の表のその他に含まれる日銀預け金利息が 9 億円増加しました。

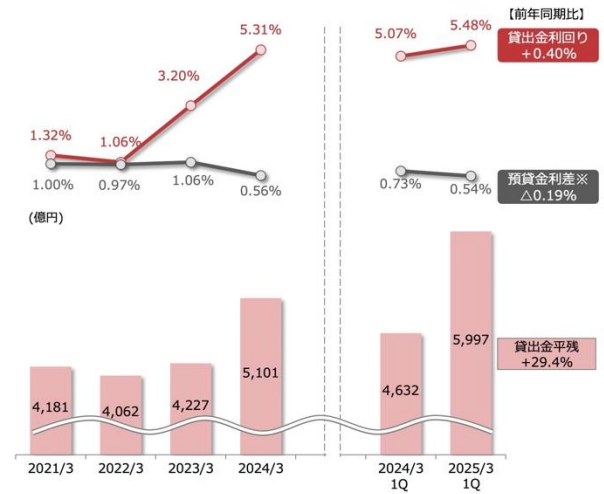
国際部門は、貸出金利息の増加や外債の利ざやの改善により、前年同期比 19 億円の増加となりました。

国内業務部門 貸出金平残・利回り

※①貸出金利回り・②預金利回り(NCD含む)ともに小数点第2位未満切捨て、
預貸金利差は①②ともに小数点第2位未満切捨て後の数値を差引き算出



国際業務部門 貸出金平残・利回り

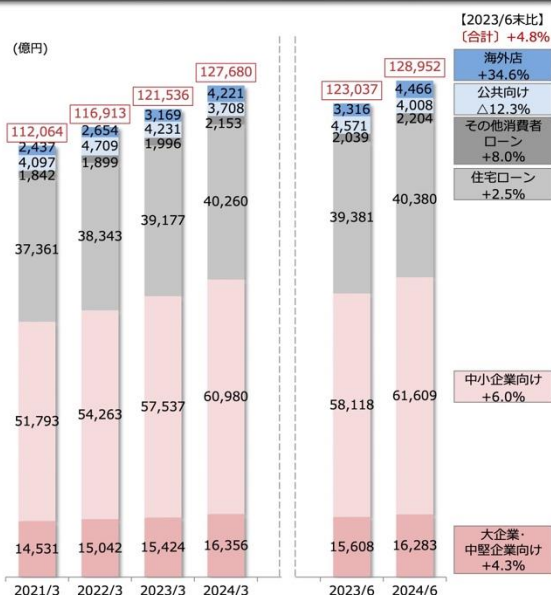


Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

6

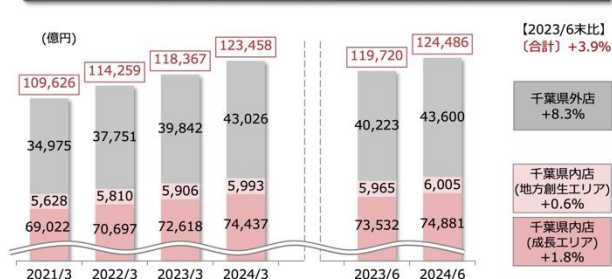
左側の折れ線グラフは、国内業務部門の貸出金の利回りです。前年同期比で2 ベーシス改善しております。

貸出金末残

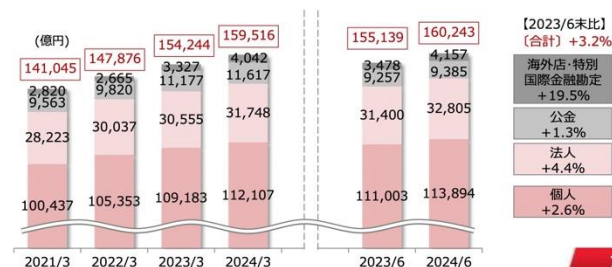


Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

国内 貸出金末残 (エリア別)



預金末残



7

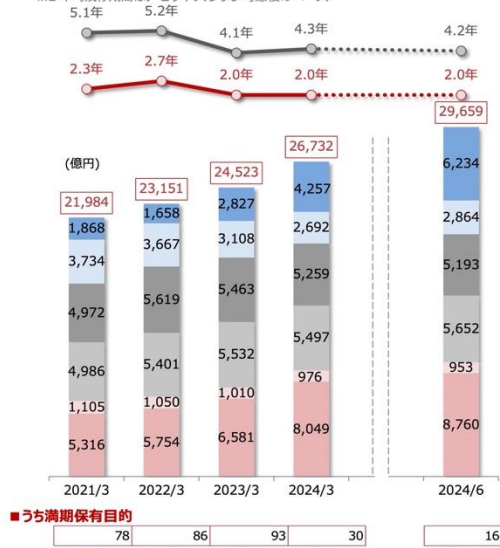
左側のグラフをご覧ください。貸出金末残です。貸出金は前年同期末に比べ 5,900 億円増加し、12 兆 9,000 億円となりました。増加率は、4.8%です。中小企業向け・大企業向けともに貸出が順調に増加したほか、住宅ローンや消費者ローンも増加しています。

右上のグラフでお示したエリア別では、県外で大きく伸ばしております。右下のグラフの預金でも、個人・法人預金ともに順調に増加しており、全体で 5,100 億円増加し、16 兆円となりました。増加率は 3.2%です。

有価証券末残※1・平均残存期間※2

※1 末残は評価損益を除くベース

※2 平均残存期間はアセットスワップ考慮後のベース



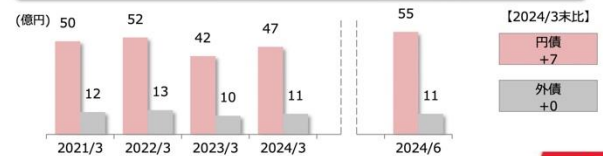
【2024/3末比】

- 円債
平均残存期間
△0.0年
- 外債
平均残存期間
△0.0年
- 〔合計〕+10.9%
- 国債
+46.4%
- 地方債
+6.3%
- 社債等
△1.2%
- 投信等
+2.8%
- 株式
△2.3%
- 外貨建有価証券
+8.8%

有価証券関連損益

(億円)	2024/3 1Q	2025/3 1Q	前年同期比
有価証券利息	171	218	46
債券	67	95	28
国内業務部門	12	15	3
国際業務部門	55	80	24
株式	75	81	6
投信等	28	41	12
うち投信解約損益	9	10	1
国債等債券損益	△2	△9	△6
うち売却益	1	0	△1
うち売却損 (△)	3	3	△0
うち償却 (△)	0	6	5
株式等関係損益	36	51	14
うち売却益	36	55	19
うち売却損 (△)	-	4	4
うち償却 (△)	-	0	0

10BPV



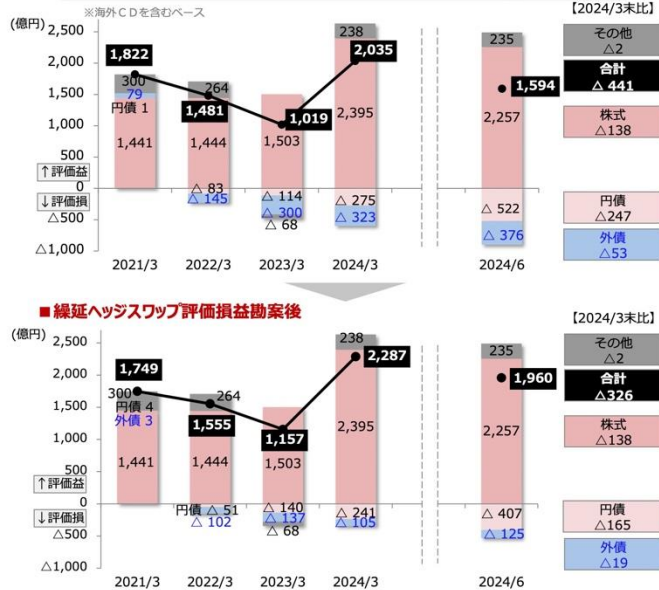
Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

8

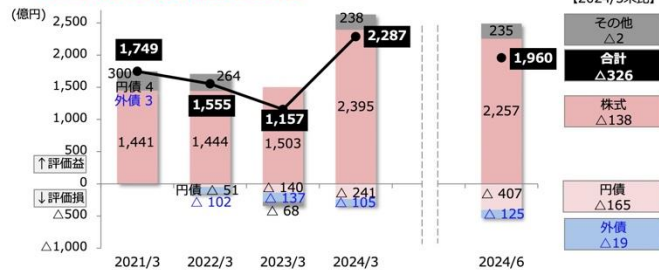
有価証券です。左側のグラフのとおり、引き続きリスクを抑えた運用を行っています。残高は、3兆円あります。今期は、金利上昇の状況を見極めながら慎重に円債を積み増す方針であり、国債を中心に残高が増加しています。

また、右側の有価証券関連損益は、純投資株式の売却を進めたことで、株式等の売却益が前年同期に比べて19億円増加しました。

■ 其他有価証券評価損益



■ 繰延ヘッジスワップ評価損益勘案後



Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

■ 連結純資産に占める政策保有株式

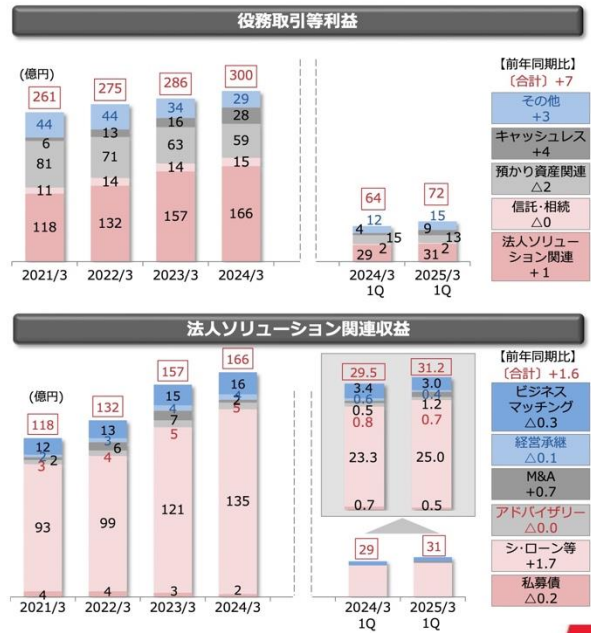


■ 政策保有株式・保有銘柄数



左側は、其他有価証券の金利スワップによるヘッジ勘案後の評価損益です。1,960 億円と、引き続き大きくプラスを維持しています。

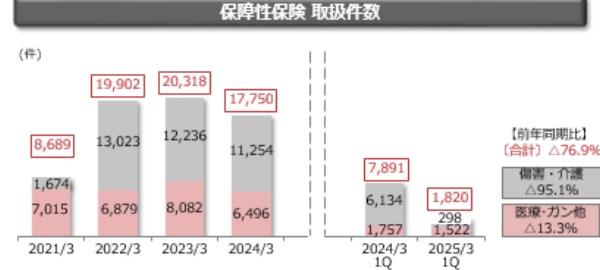
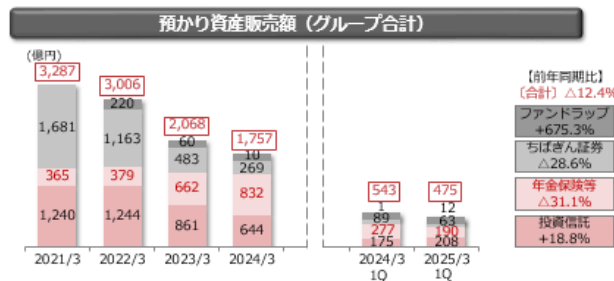
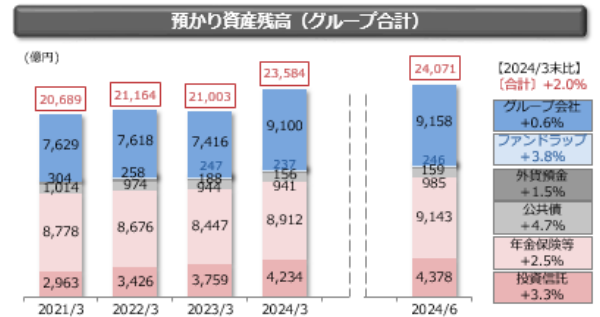
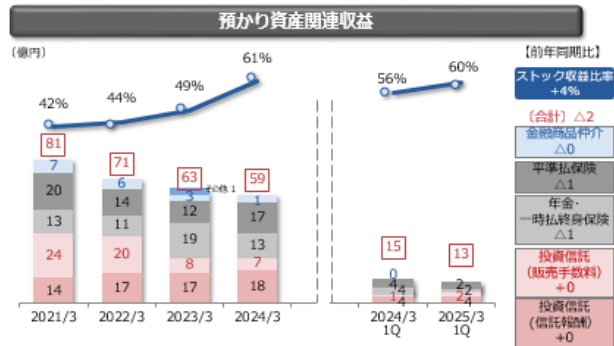
(億円)	2024/3 1Q	2025/3 1Q	前年同期比
役務取引等利益	64	72	7
役務取引等収益	114	126	12
役務取引等費用 (△)	49	54	4
<主な内訳>			
うち預かり資産関連	15	13	△ 2
うち投信手数料 (信託報酬)	4	4	0
うち投信手数料 (販売手数料)	1	2	0
うち年金・一時払終身保険手数料	4	2	△ 1
うち平準払保険手数料	4	2	△ 1
うち金融商品仲介手数料	0	-	△ 0
うち法人ソリューション関連	29	31	1
うち私募債	0	0	△ 0
うちシ・ローン等	23	25	1
うちアドバイザー手数料	0	0	△ 0
うちM&A手数料	0	1	0
うち経営承継アドバイザー手数料	0	0	△ 0
うちビジネスマッチング手数料	3	3	△ 0
うち信託・相続関連	2	2	△ 0
うちキャッシュレス関連	4	9	4
うち為替関連	32	33	1
うちローン支払保険料・保証料 (△)	29	27	△ 1



Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

10

左側の表の役務取引等利益は、キャッシュレスや法人ソリューション関連の増加によって、全体では前年同期に比べて7億円の増加となりました。



Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

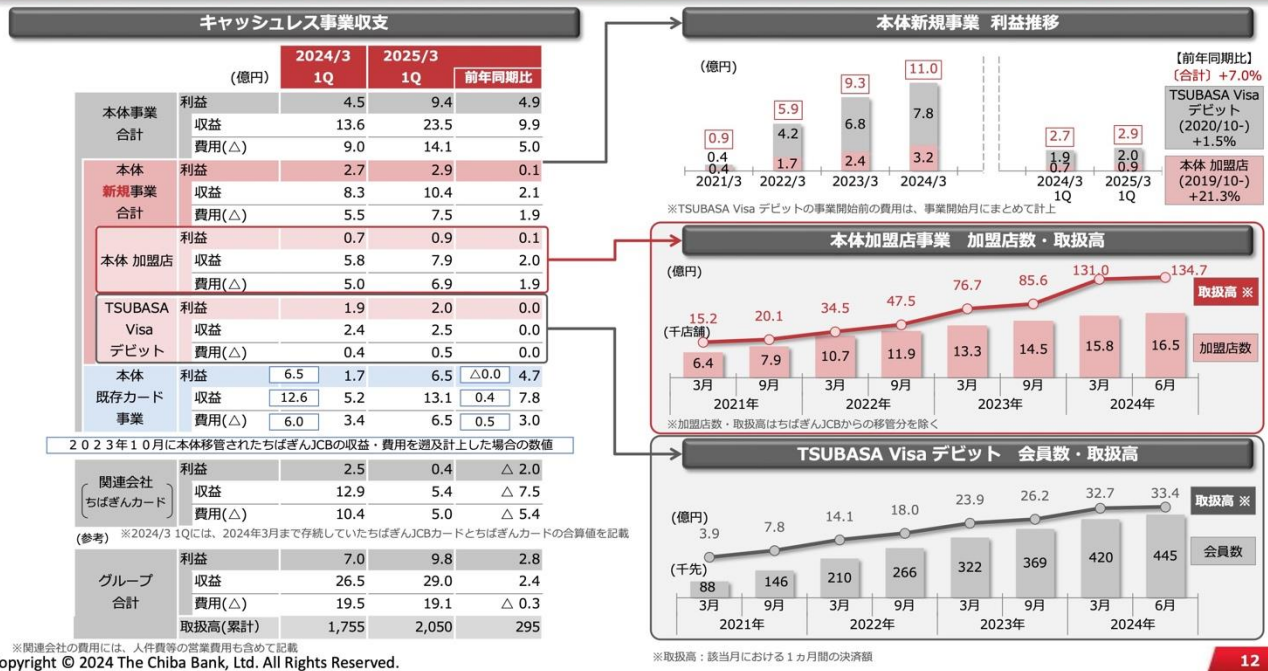
※2024/3月期通期決算より保障性・貯蓄性保険の商品分類を変更 (過去に遡って変更)

11

預かり資産です。左上の預かり資産関連収益は、2億円の減少となっております。しかし、投資信託の販売額は前年同期に比べてプラスに反転しているほか、左上の折れ線グラフのストック収益比率は、前年同期の56%から60%に上昇しています。

また、右上のグループ全体の預かり資産残高は、3月末に比べて2%増加しております。FDや活動量を重視した営業活動を徹底する中、1日当たりの顧客面談数は増加しており、お客様への理解が深まる中、足元では成約率も徐々に上昇しています。

今後も、中計で掲げたパーパスやビジョンを全ての判断軸として、お客様本位の姿勢を徹底してまいります。



キャッシュレス事業は、右側中段のグラフの加盟店数、またその下の会員数ともに着実に増加しており、取扱高も拡大しています。

本体事業の利益は 4.9 億円の増益、グループ合計の利益は 2.8 億円の増益となりました。

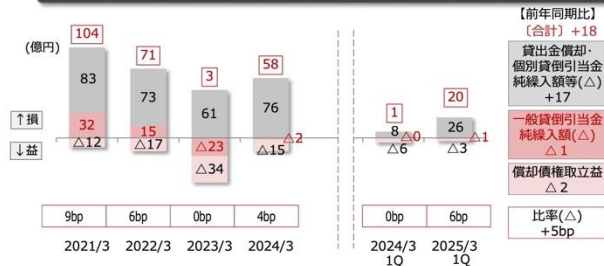
与信関係費用

	2024/3 1Q	2025/3 1Q	前年同期比
与信関係費用 (△)	1	20	18
一般貸倒引当金純繰入額 (△)	△ 0	△ 1	△ 1
不良債権処理額 (△)	2	22	19
貸出金償却・個別貸倒引当金純繰入額等 (△)	8	26	17
うち個別貸倒引当金純繰入額 (△)	△ 0	5	5
うち新規発生 (△)	15	28	12
うち既先 (△)	1	1	0
うち回収等	8	3	△ 4
償却債権取立益	6	3	△ 2
与信費用比率 (△)	0bp	6bp	5bp

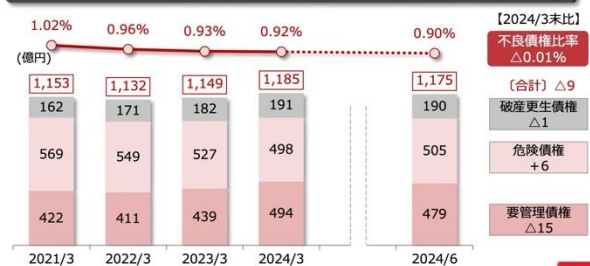
不良債権 新規発生



与信関係費用(△) 推移



金融再生法開示債権・不良債権比率



Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

13

与信関係費用です。左上の通り、前年同期に比べ 18 億円の増加となりました。新規発生は 12 億円増加しており、インフレや物価の上昇、人手不足などの環境変化の中、引き続き取引先に対する伴走支援を徹底してまいります。

不良債権比率は 0.90%に低下しており、地銀トップレベルの健全性を維持しています。

経費・OHR

単体	2024/3 1Q	2025/3 1Q	前年同期比
経費	211	223	12
人件費	101	104	2
物件費	93	101	7
税金	17	18	1
OHR	45.74%	42.91%	△2.82%

連結

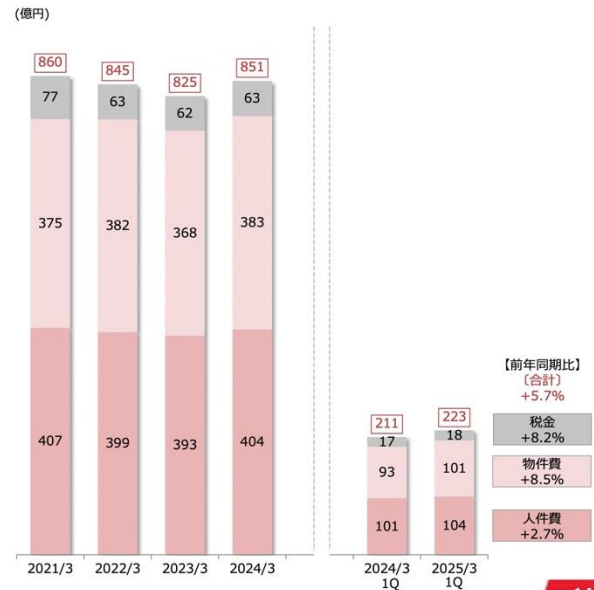
OHR	48.53%	45.35%	△3.17%
-----	--------	--------	--------

※ OHR：経費÷（業務純益－債券関係損益等＋一般貸倒引当金純繰入額＋経費）

OHR推移



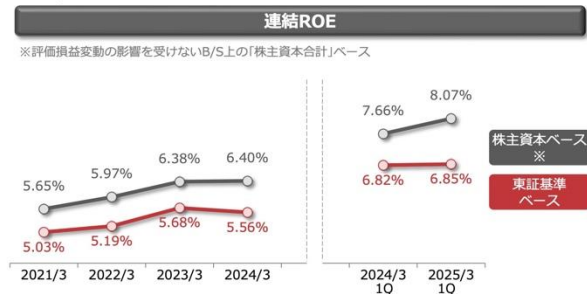
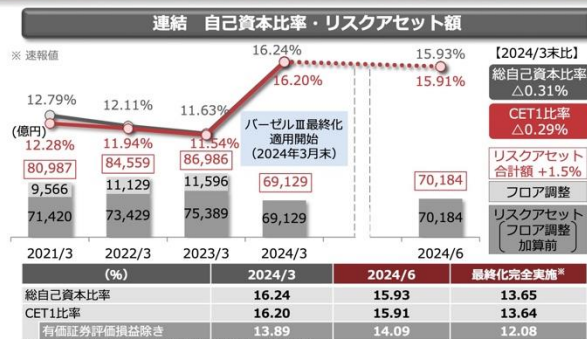
単体 経費推移



Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

左上の経費は、中計で掲げた戦略的投資や人的資本投資を強化したことなどにより、物件費・人件費ともに増加し、全体で12億円の増加となりました。年度計画885億円に対して進捗率は25.2%で、計画どおりの進捗です。

経費を上回るトップラインの増加が実現できていることから、連結OHRは約45%となっています。



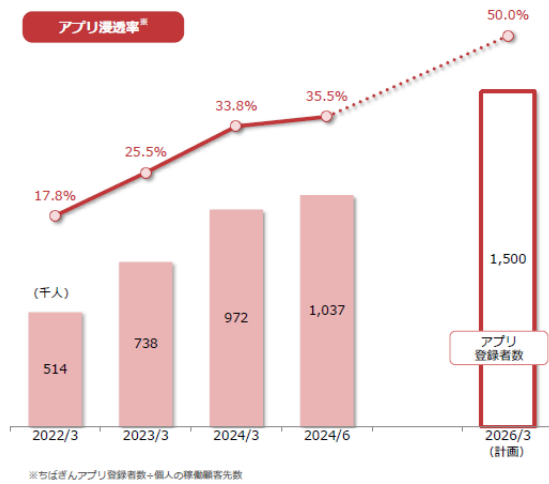
Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.



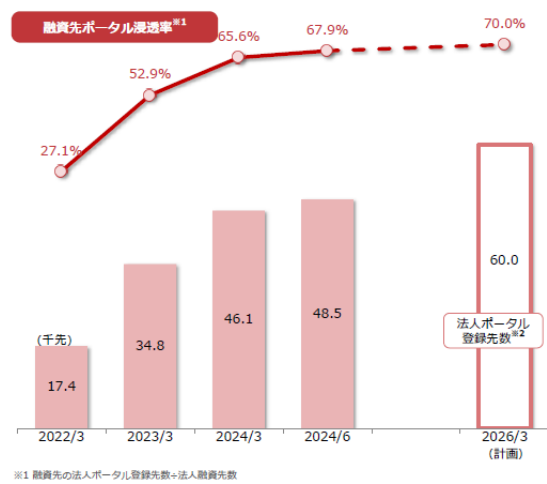
左上に記載のとおり、CET1 比率は 15.91%となりました。この数値を、有価証券評価差額金を除いたバーゼルⅢ最終化完全実施ベースの水準で試算すると、12.08%となります。

ターゲットとする 10.5%から 11.5%のレンジを上回っており、今後さらなるリスクアセットの積み増しや、インオーガニック投資、DX 投資などの成長投資を進めるほか、還元のさらなる強化を検討してまいります。

アプリ登録者数・浸透率



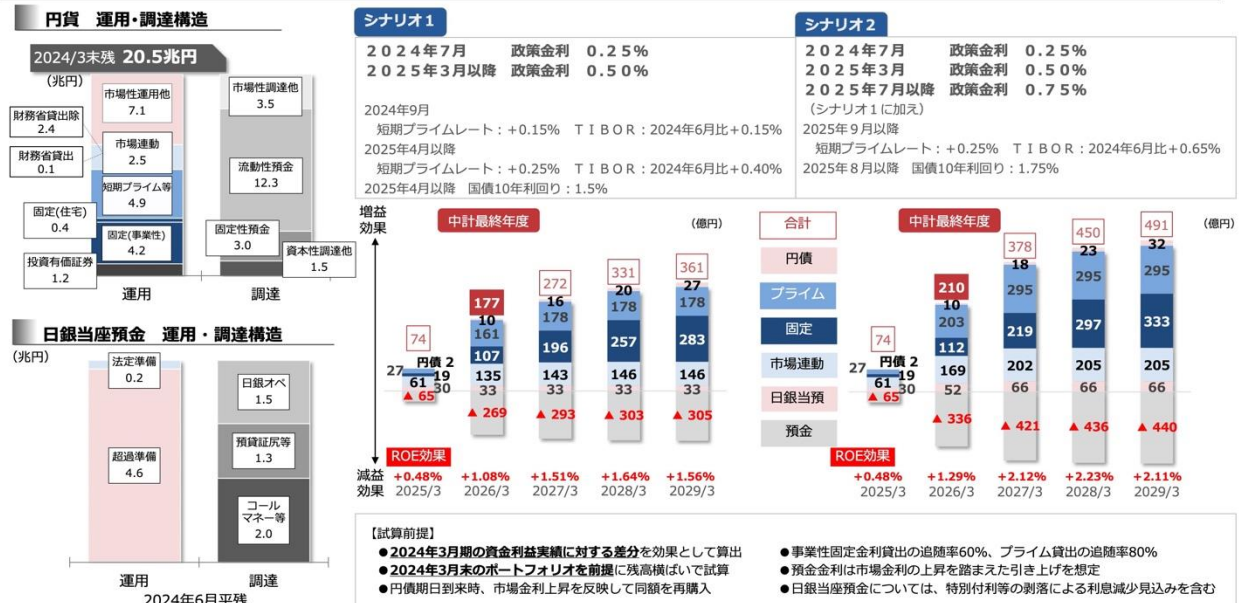
ポータル登録先数・融資先浸透率



補足資料



政策金利変更を踏まえ、改めて金利上昇シミュレーションを実施



Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

18

続いて、足元のトピックについてお話しします。

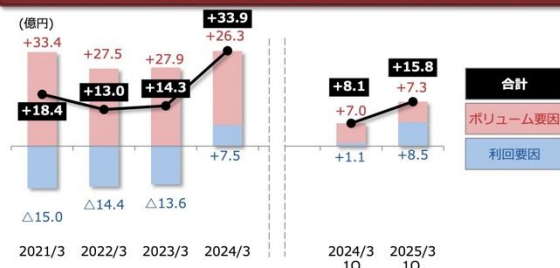
先週の政策金利変更を踏まえ、改めて金利上昇シミュレーションを実施しました。2025年3月の追加利上げを見込んだものがシナリオ1、さらに2025年7月の追加利上げを見込んだものが隣のシナリオ2です。

2024年3月期の資金利益の実績に対して、シナリオ1では、赤くなっておりますが、中計最終年度177億円、右側のシナリオ2では、210億円の増収効果があるものと見込んでおります。

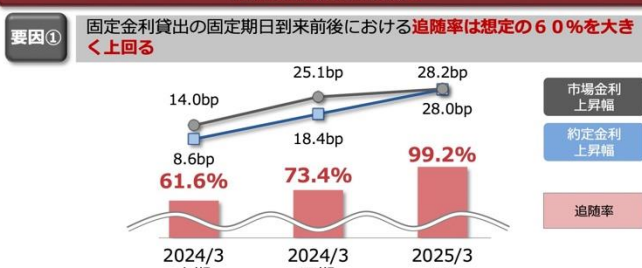
5月の決算説明会でお示した数値から変更がありますが、シミュレーション上の短期プライムレートの引き上げ幅を見直したほか、日銀当座預金について、特別付利などの剥落による影響を加味したことなどが主な要因です。

固定金利貸出の高い追従率・市場連動貸出の金利上昇などにより事業性貸出利息の増加は加速

事業性貸出利息の増減要因（前年同期比）



事業性資金の利回り改善



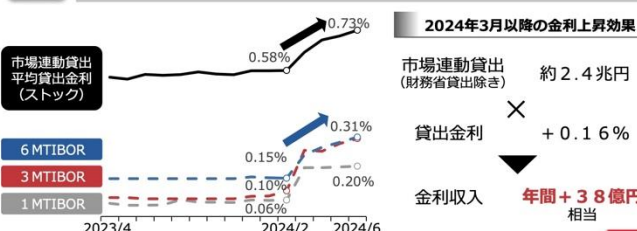
一般貸出（円貨） 1日当たり資金利益

※各半期の期末月(3・9月)及び四半期末月(6月)の1日当たり資金利益



Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

要因② 市場レートの上昇と連動し、市場連動貸出の貸出金利が上昇



ここからは、第1四半期における貸出金利の上昇について補足説明します。

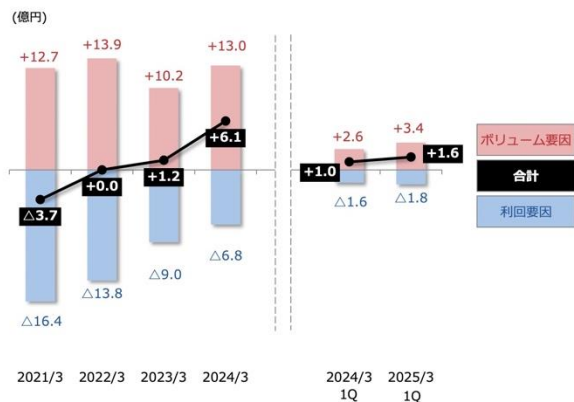
まず、事業性貸出について左上のグラフをご覧ください。第1四半期では、ボリューム要因に加え、利回り要因もプラスに働いています。

利回り改善の主な要因は、右側に記載した2点です。まず上段、固定金利貸出の期日到来による約定レートの上昇です。市場金利が上昇傾向にある中、固定金利の期日到来時のきめ細かい金利交渉によって、市場金利上昇幅に対する約定金利の上昇割合である追従率は大きく上昇しました。

その下の市場連動貸出については、参照金利である TIBOR が今年2月以降大きく上昇しており、市場連動貸出の平均貸出金利も連動して上昇しています。市場連動貸出残高は約 2.4 兆円ですが、2月以降の貸出金利は 0.16% 上昇しており、年換算では約 38 億円の金利収入の増加効果となっています。

住宅ローン利息が下げ止まる中、無担保ローンの残高増加によりローン全体の利息収入は安定して増加

ローン利息の増減要因（前年同期比）



ローン 1日当たり資金利益



無担保ローン残高推移



Copyright © 2024 The Chiba Bank, Ltd. All Rights Reserved.

20

左のグラフのとおり、ローン全体では年々利回り要因のマイナスが縮小しており、住宅ローンや無担保ローンのボリューム効果によって、資金利益は増加しています。

中でも、右下の無担保ローンの着実な増加が資金利益の増加に寄与しています。引き続き、非対面のアプリ内ローン「Oneローン」のご提案などを通じて、残高を伸ばしてまいります。

政策金利見直しを踏まえて、9月2日より短期プライムレートを0.15%引き上げることを先ほどもリリースしております。これによって、住宅ローンを中心としたプライム貸出の改善が見込まれるものと考えております。

私からの説明は以上です。

本資料に関するご意見、ご感想、お問い合わせは
下記 I R 担当までお願いいたします。

株式会社 千葉銀行経営企画部（I R 担当）

Tel : 043-301-8459
Fax: 043-242-9121
E-Mail: ir@chibabank.co.jp

本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。

本資料に記載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。本資料には、将来の業績にかかる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。